

連載 16 いまだに続く-----チェルノブイリ閉鎖地域の汚染

調査地点		放射能レベル (ピコキュリー/リットル)	
		ストロンチウム 90	セシウム 137
地下水	ヤニフ駅	110.0	1.6~2.8
	原発冷却水池	64~200	1.6~5.6
	第三紀の水 (古代の水)	0.4	<1.0
	配水管ネットワーク	0.3~1.8	0.3~0.8
表層水	プリピアチ川	5.1~8.9	3.0~6.0
	原発冷却水池	55~60	64~75
	ジモフィシュチェ湖	210~490	33~54
	グリボク湖	2900	356
汚染水排水路	ウズ川へ (チェルノブイリ町)	6.4	19.0
	キエフダム湖へ (ゼレニイ・ミス町)	1.9	4.5
	原発冷却水池へ	75.0	57.0

(調査 1996 年 12 月ウクライナ政府による)

事故から 14 年目に入るチェルノブイリ原発の立ち入り禁止区域(いわゆるゾーン)内の環境は今でも深刻な放射能汚染が続いている。汚染物質の中でも半減期が約 30 年のセシウム 137 とストロンチウム 90 は大きな汚染源である。

汚染した地表から浸透した水で地下水にまで汚染が拡大し、地表を流れる雨水で川や湖の水が強烈に汚染している様子が左の表で見取れる。汚染のレベルがどれほどかは、化石年代の水(第三紀)と比較すれば良く分かる。かつてはどこもこうしたきれいな水でいっぱいだったチェルノブイリ地区、42000 人の原発関連住民の町プリピアチ地区は、今ではいつ回復するとも知れない汚染の町、無人地帯である。

汚染地帯に降った雨によって、放射能はプリピアチ川を通じ下流の首都キエフに達して 260 万人の命をつなぐ飲み水を汚染する。長期的には大きな問題である。以前にも書いたがゾーンの中は無人となって野生動物の天国である。動物達は汚染した植物を食べ、汚染した水を飲む。調査によれば、猪の肉は季節にもよるが、1Kg 当たり 478.4~101493 ベクレル、ノコ鹿の肉は 666.3~273450 ベクレルの放射能で汚染されている。サマシヨークと呼ばれる、避難先から汚染地域に戻って暮らしている人々はこうした環境で生きている。

(河田)